

シニア世代とそのご家族の人生によりそい、ささえる  
ライフエンディングパートナー



燦ホールディングス株式会社  
SAN HOLDINGS

# 燦ホールディングス株式会社

## 決算説明会（2023年3月期第2四半期）

---

2022年11月22日

東証プライム  
証券コード 9628

# 目次

---

1	2023年3月期第2四半期決算概要	P 02
2	公益社の葬儀(件数・単価)の状況	P 11
3	葬仙・タレイの概況	P 17
4	2023年3月期(2022年度)の予想(業績・配当)	P 20
5	新10年ビジョン 中長期目標達成のための2つの挑戦	P 23
6	中期経営計画の進捗 2023年3月期～2025年3月期(2022～2024年度)	P 29

---

# 2023年3月期第2四半期決算概要

---

シニア世代とそのご家族の人生によりそい、ささえる  
ライフエンディングパートナー

 SAN HOLDINGS

## 2Q累計 業績

- 2023年3月期 2 Q累計の業績は増収増益
- 増収の主要因は、大規模葬儀の件数増加と一般葬儀（広義）の単価上昇
  - 後者は、小規模・簡素な葬儀の件数減少と件数割合の低下、並びに一般葬儀（狭義）の単価持ち直しによるもの。
  - コロナ禍を契機に加速した葬儀の小規模化が当期一旦緩和している。
- 費用は、広告宣伝費や新規会館に係る地代家賃、政策的取組のためのコンサルティング費用、人材補充・強化による人件費や採用費などが、増加したが、計画に基づいてコントロールできている。
- この結果、営業利益は前年同期比 2 桁の増益率となり、営業利益率も向上した。

## 業績予想

- 2 Q業績予想の上方修正（2022/11/2）を公表するも、通期予想は据え置き
  - 新型コロナウイルスの感染再拡大のリスク
  - 原油高に伴う光熱費の下期さらなる上昇のリスク

## 配当予想

- 期末配当は21円を予定し、年間では4円増配の42円（7期連続増配）を予定（予想配当性向 21.3%）

## 2Q累計 損益

- ・ 営業収益は前年同期比6.0%の増収、営業利益は同11.1%の増益。費用の9割超を占める営業費用の伸びを増収率に比べて抑制し、営業利益率は17.7%と前年同期比0.8ポイント向上
- ・ 新型コロナウイルス感染症拡大により加速した葬儀の小規模化がやや緩和する中で、主に大規模葬儀の増加と一般葬儀の単価の持ち直しにより増収を確保
- ・ 費用は、会葬者や社葬・お別れの会の増加による直接費の増加、広告宣伝費や地代家賃、人材強化のための採用関連費、政策的な取組のコンサルティング費用等が増加

(単位：百万円)

	FY2021 2Q累計	FY2022 2Q累計	前年同期比		業績予想(2022.5.12)	
			増減率	増減額	4Q累計	2Q進捗率
営業収益	9,512	10,083	6.0%	570	20,800	48.5%
営業費用	7,281	7,602	4.4%	321		
一般管理費	626	697	11.4%	71		
営業利益	1,604	1,782	11.1%	177	3,400	52.4%
営業利益率	16.9%	17.7%	0.8pt		16.3%	
経常利益	1,604	1,763	9.9%	158	3,390	52.0%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,038	1,218	17.4%	180	2,130	57.2%
1株当たり純利益(円)	94.58	114.96	21.5%	20.38	199.64	57.6%

- ・ 1 Qの減収減益から 2 Qは増収増益に転換。2 Qの営業収益は前年同期比 1 割超の増収。営業費用、一般管理費の増加を吸収して営業利益は 4 割の増益
- ・ 葬儀 3 社の 2 Qの葬儀施行件数が揃って 2 桁の伸び率となったことが寄与した。

(単位：百万円)

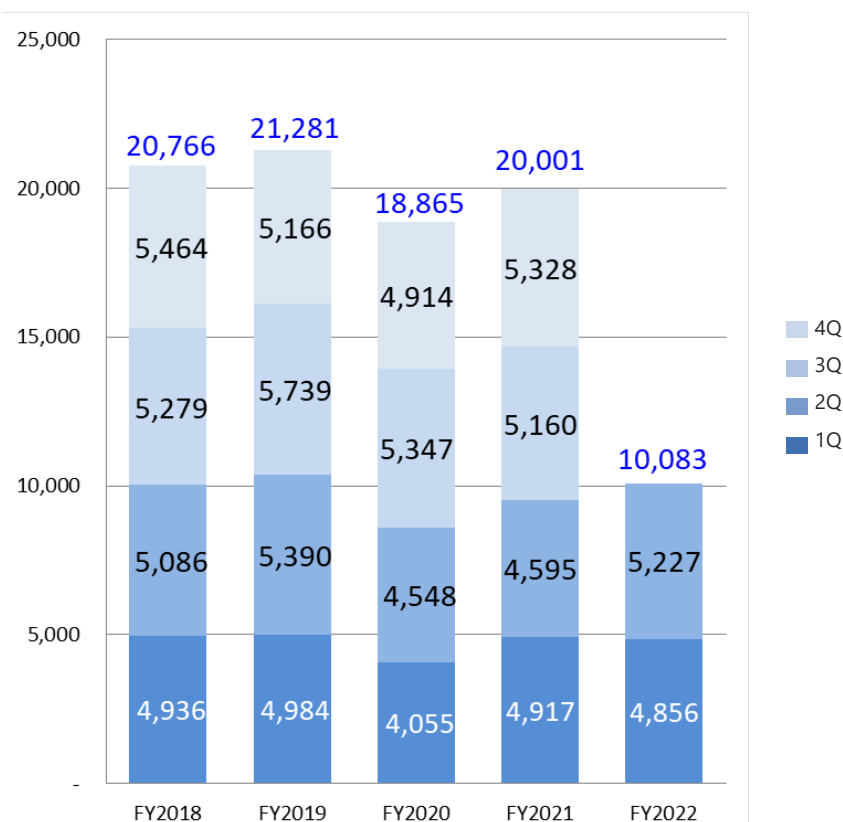
	FY2021 1Q	FY2022 1Q	前年同期比 増減率	FY2021 2Q	FY2022 2Q	前年同期比 増減率
営業収益	4,917	4,856	-1.2%	4,595	5,227	13.7%
営業費用	3,671	3,667	-0.1%	3,610	3,934	9.0%
一般管理費	311	349	12.2%	314	348	10.6%
営業利益	934	838	-10.3%	670	943	40.8%
営業利益率	19.0%	17.3%	-1.7pt	14.6%	18.1%	3.5pt
経常利益	939	825	-12.1%	664	937	41.1%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	610	526	-13.8%	427	692	62.0%

# 四半期業績推移

- ・ 営業収益は7-9月好調により、2Q累計ではコロナ前の2019年度には届かないものの、2018年度を上回った。
- ・ 営業利益も7-9月高水準により2Q累計でコロナ前を上回り、過去最高益だった2021年度の年間営業利益の5割超

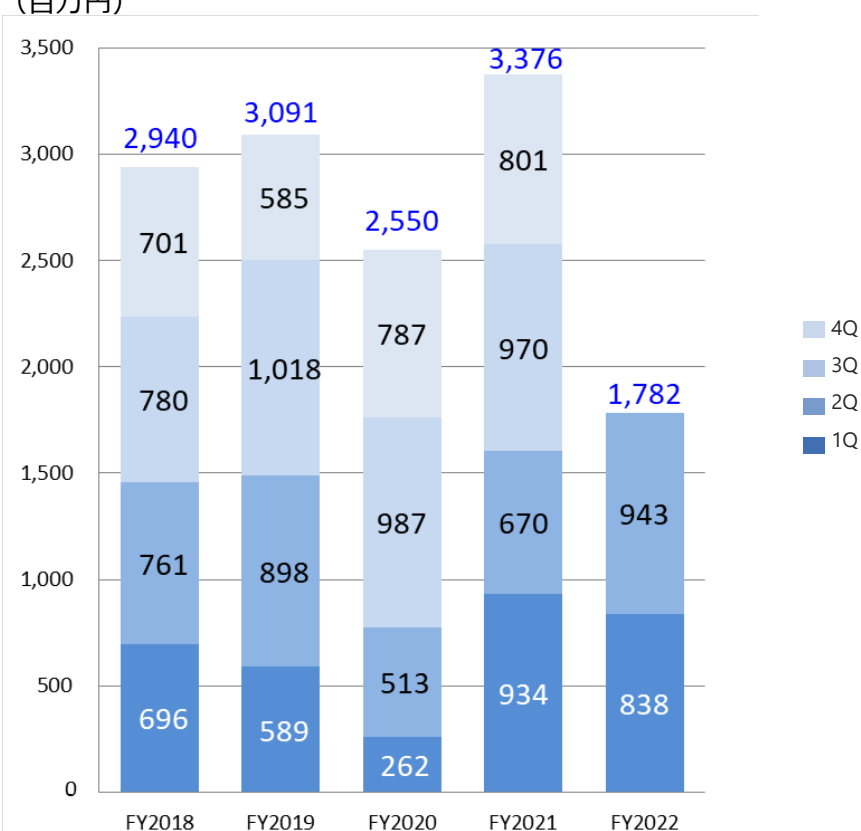
## 四半期別 営業収益

(百万円)



## 四半期別 営業利益

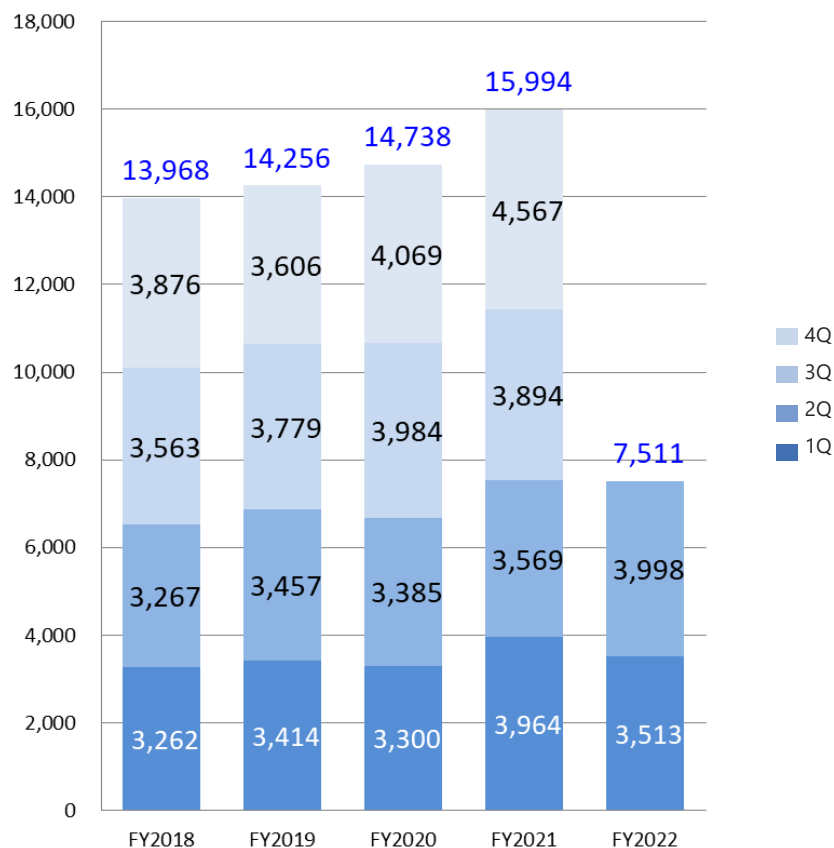
(百万円)



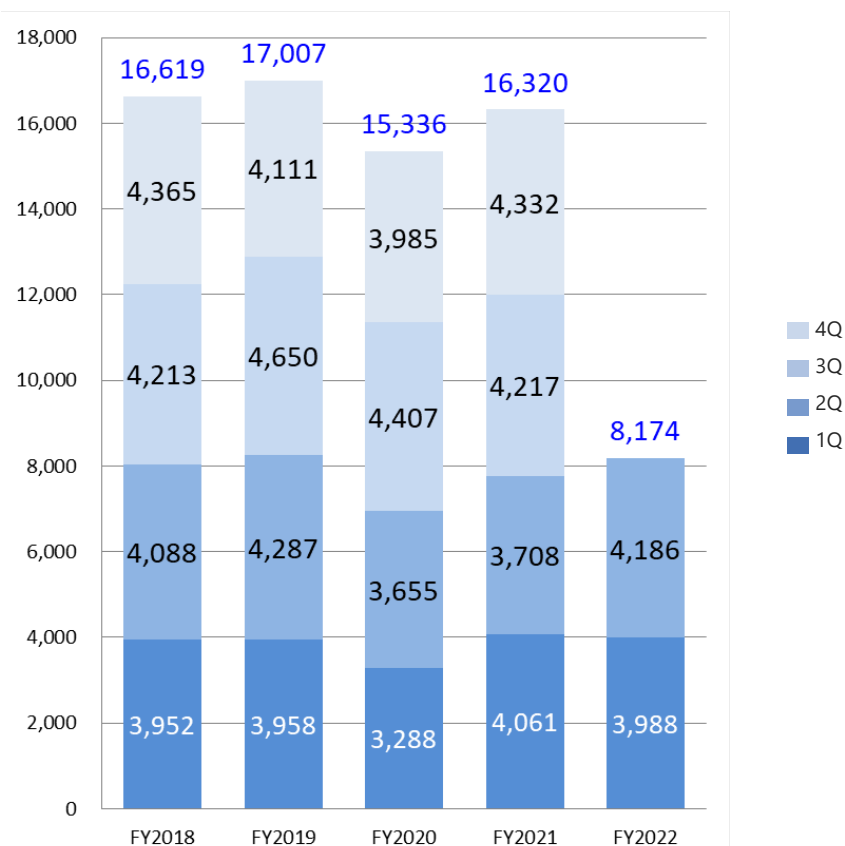
# グループの葬儀件数・施行収入の推移

- ・ 葬儀件数はすでにコロナ前を上回り、葬儀施行収入も2019年度に迫っている。
- ・ 葬儀件数は前年同期比0.3%減少したものの、小規模で簡易な葬儀の減少であるため、葬儀単価は上昇し、葬儀施行収入は前年同期比5.2%増加した。

(件) 四半期別 葬儀件数



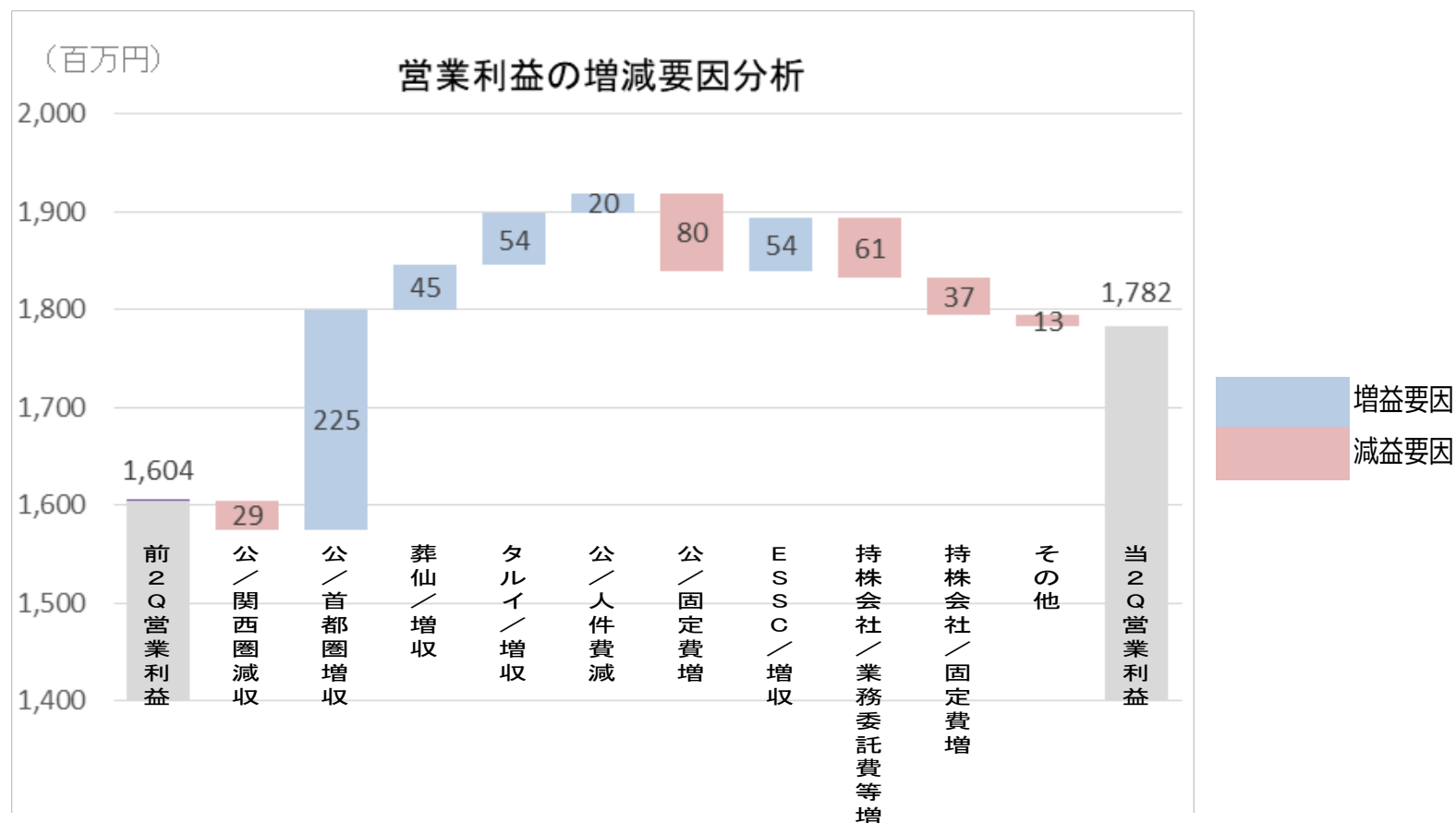
(百万円) 四半期別 葬儀施行収入





# 営業利益の増減要因分析

公益社（首都圏）ほか事業会社の増収に起因する増益によって、新規会館出店に伴う地代家賃や持株会社の政策的なコンサルティングに係る業務委託費等の増加をまかない、営業利益の増益を確保した。



公は公益社、E S S Cはエクセル・サポート・サービスを示す。

# 貸借対照表の増減（資産の部）

- ・ 会館の新規投資及びリニューアル投資により建設仮勘定が1.1億円増加したが、有形固定資産全体では減価償却の進行により減少した。
- ・ 無形固定資産の増加は、新しい基幹情報システム構築に係る建設仮勘定1.4億円の計上による。
- ・ 現預金はこれらの投資資金や株主還元の資金に充当して2.6億円減少した。

(単位:百万円)

	2022年3月末	2022年9月末	前年度末比 増減額
<b>流動資産</b>	<b>8,715</b>	<b>8,767</b>	<b>52</b>
現金及び預金	7,443	7,174	▲269
営業未収入金及び契約資産	759	790	31
<b>固定資産</b>	<b>25,132</b>	<b>25,362</b>	<b>230</b>
有形固定資産	22,662	22,623	▲38
建物及び構築物	9,761	9,658	▲102
建設仮勘定	32	142	110
無形固定資産	218	369	150
投資その他の資産	2,251	2,369	118
<b>資産合計</b>	<b>33,847</b>	<b>34,130</b>	<b>282</b>

(参考)

有形固定資産の設備投資額	252	百万円 (FY2022 2Q累計)
"    減価償却費	392	百万円 (    "    )

(注) 勘定科目の詳細は主要なもののみ示した。

# 貸借対照表の増減（負債・純資産の部）

- ・ 負債は営業未払金等の流動負債の減少を中心に減少
- ・ 株主資本は当期3.1億円の自己株式取得実施により減少するも利益剰余金が増加。自己資本比率は前期末比1.4pt上昇して88.9%

(単位:百万円)

	2022年3月末	2022年9月末	前年度末比 増減額
<b>流動負債</b>	<b>3,026</b>	<b>2,678</b>	<b>▲347</b>
営業未払金	851	707	▲144
未払法人税等	558	500	▲58
<b>固定負債</b>	<b>1,191</b>	<b>1,101</b>	<b>▲89</b>
リース債務	246	197	▲49
長期未払金	178	121	▲57
<b>負債合計</b>	<b>4,217</b>	<b>3,780</b>	<b>▲437</b>
<b>株主資本</b>	<b>29,629</b>	<b>30,349</b>	<b>720</b>
利益剰余金	23,402	24,394	992
自己株式	△1,835	△2,120	▲284
<b>純資産合計</b>	<b>29,629</b>	<b>30,349</b>	<b>720</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>33,847</b>	<b>34,130</b>	<b>282</b>
自己資本比率	87.5%	88.9%	1.4pt

(注) 勘定科目の詳細は主要なもののみ示した。

# 公益社の葬儀（件数・単価）の状況

---

シニア世代とそのご家族の人生によりそい、ささえる

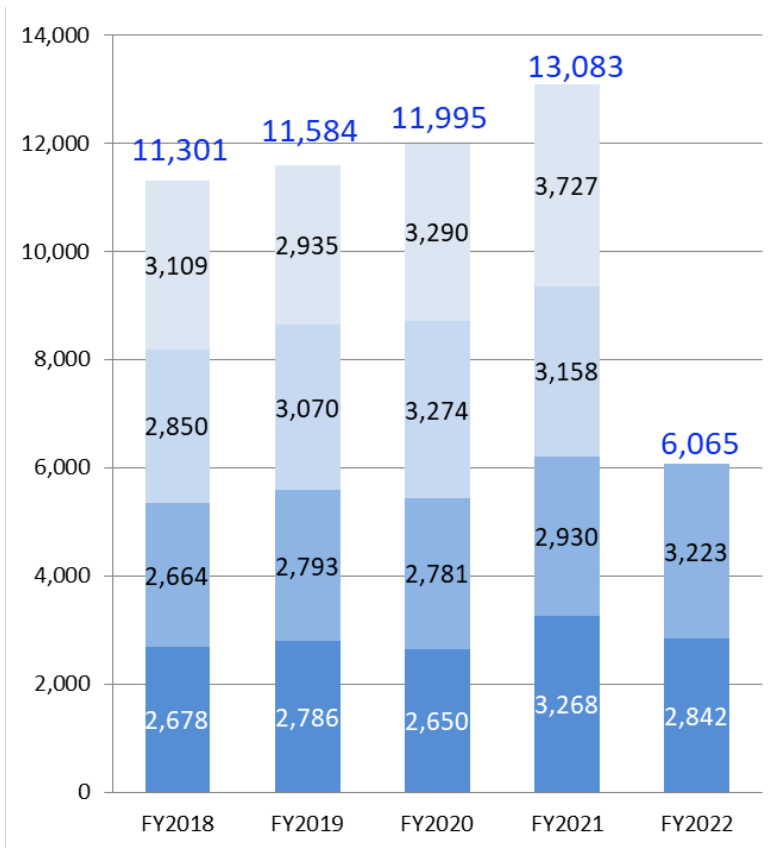
ライフエンディングパートナー

 SAN HOLDINGS

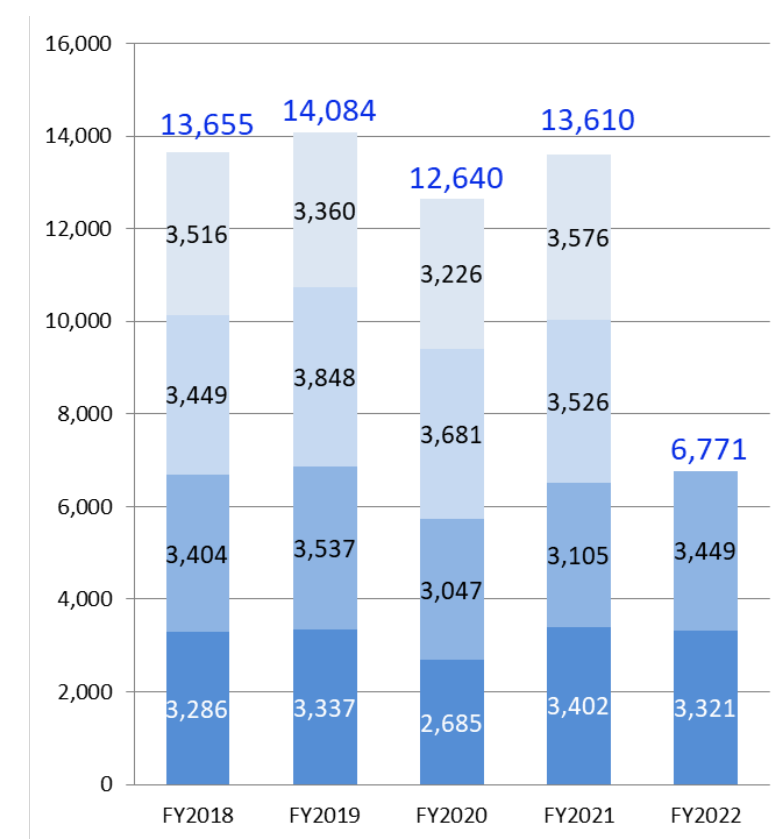
# 公益社：葬儀件数・葬儀施行収入の推移

- ・ 1Qに前年同期比大幅に減少した葬儀件数は2Qに増加したが、2Q累計では前年同期比2.1%の減少。これは小規模で簡素な葬儀（シンプル葬他）の減少によるもの。
- ・ 葬儀施行収入は、シンプル葬他の割合の低下とそれ以外の一般葬儀の単価の持ち直しにより前年同期比4.0%の増収となった。

(件) 葬儀件数四半期別推移



(百万円) 葬儀施行収入四半期別推移

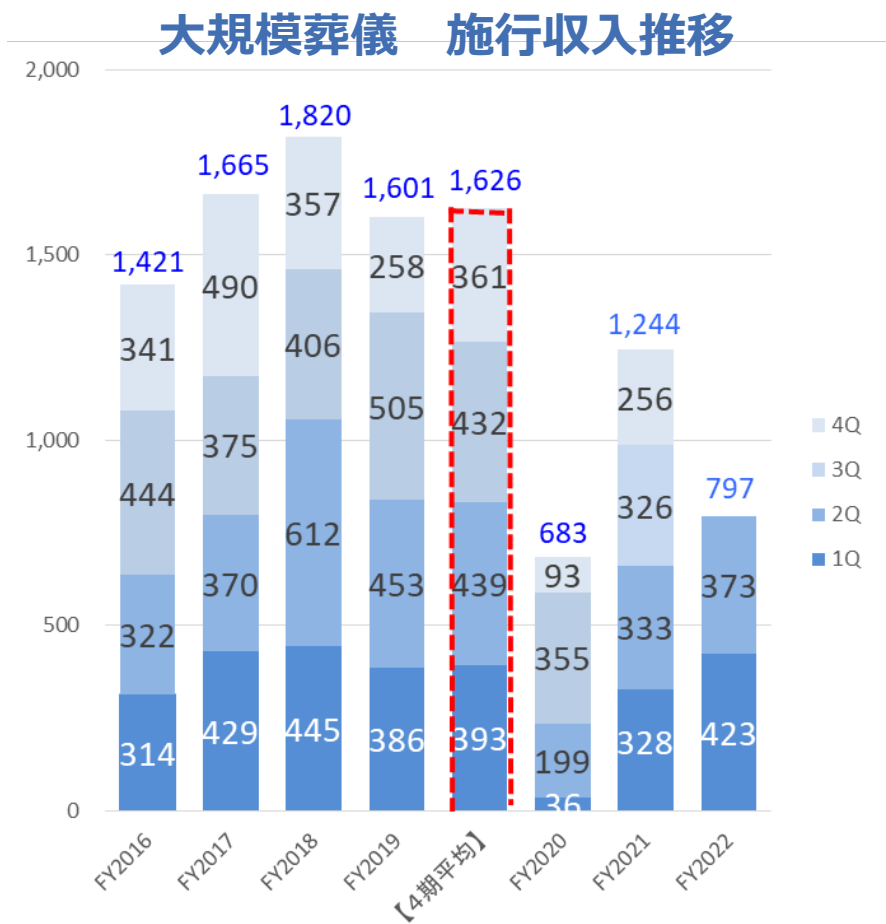


# 公益社：葬儀件数・施行収入の増減

- ・大規模葬儀も一般葬儀も増収に寄与している。どちらも首都圏の寄与が大きい。
- ・地域別×規模別の4つのカテゴリーのうち、関西圏の一般葬儀のみ前年同期比で件数、金額ともに前年同期比減少となった。
- ・これは、前年一時的に増加したコロナ関連葬儀が減少した影響であり、件数に比べて金額への影響は限定的である。なお、2Q（7－9月）には件数、金額とも前年同期比増加に転じている。

	大規模葬儀 (500万円超)	一般葬儀	合 計
上段:件数(件) 下段:金額(百万円)			
首都圏	7	125	132
	103	191	294
関西圏	3	▲268	▲265
	32	▲64	▲32
合 計	10	▲143	▲133
	135	127	263

・ 社葬・お別れの会等の大規模葬儀（5百万円超）は、コロナ影響による2020年度の大きな落ち込みからの回復基調にある。当2Qはコロナ前の4年平均（2016～2019年度）の同期間に対して、金額ベースで96%まで回復した。



公益社では全葬儀件数が2.1%減少したのに対して、葬儀単価は6.3%上昇した。

## (単価上昇の主な要因)

- ・ 首都圏、関西圏いずれも一般葬儀（広義）のうち「シンプル葬他」（=小規模で簡素な低価格帯葬儀）の構成比が低下したこと
- ・ 関西圏で「一般葬儀（狭義）」の単価が上昇したこと  
⇒この結果、「一般葬儀（広義）」の単価は首都圏で2.5%の上昇、関西圏で4.5%の上昇

上段：件数（件）

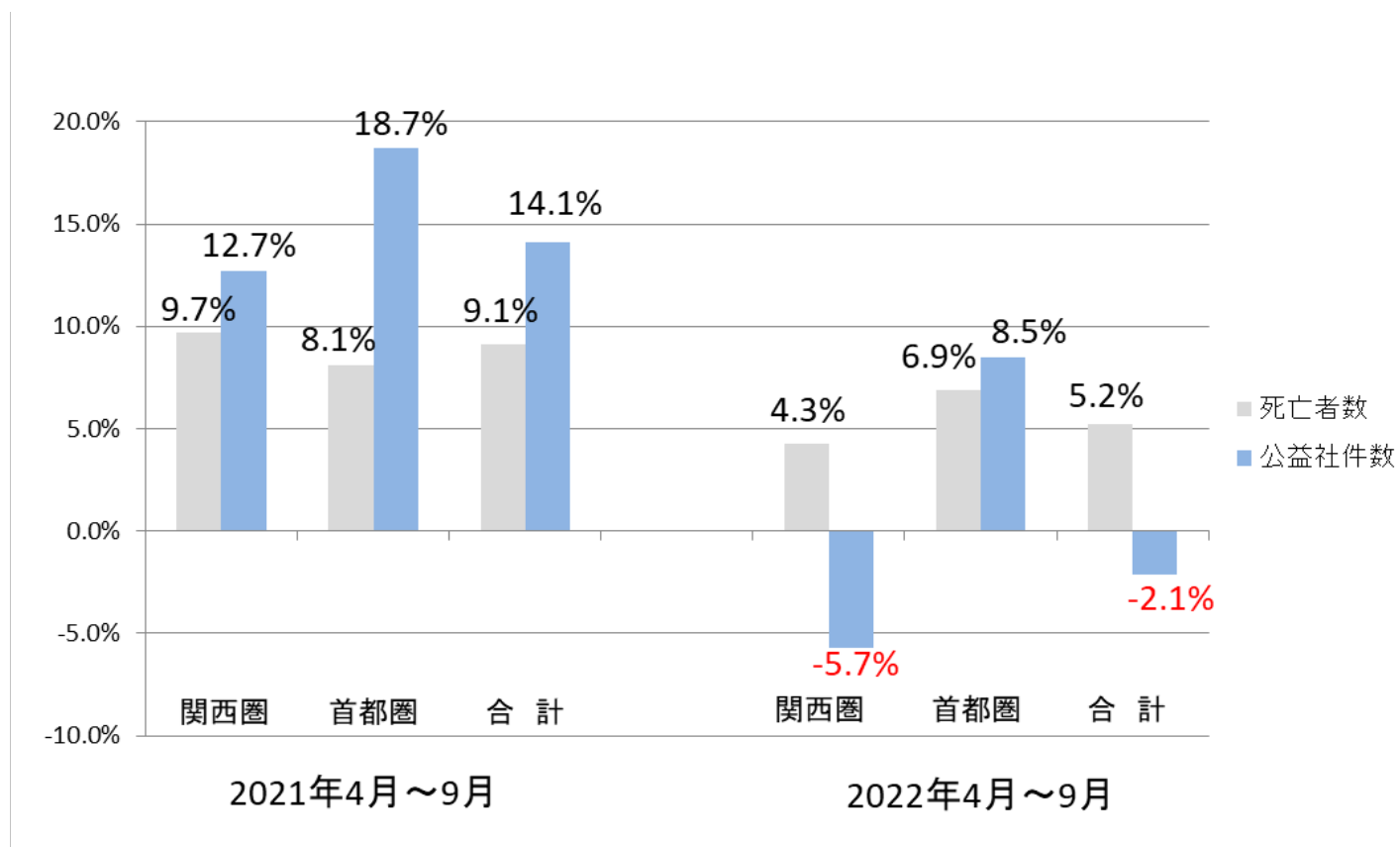
下段：単価（千円）

	全社			首都圏			関西圏		
	FY2021 2Q累計	FY2022 2Q累計	増減率	FY2021 2Q累計	FY2022 2Q累計	増減率	FY2021 2Q累計	FY2022 2Q累計	増減率
公益社全葬儀	6,198	6,065	-2.1%	1,546	1,678	8.5%	4,652	4,387	-5.7%
	1,050	1,116	6.3%	1,326	1,397	5.4%	958	1,008	5.3%



死亡者数と葬儀施行件数それぞれの増減率の比較により、シェアの増減を推定すると、  
(関西圏) 死亡者数が増加する中で件数が減少していることから、シェアは明らかに低下したとみられる。競合の出店等の影響が現れている。  
(首都圏) 新店効果もありシェアはやや上昇したとみられる。

死亡者数と葬儀施行件数の前期比増減率の比較によるシェア増減の推定



# 葬仙・タレイの概況

---

シニア世代とそのご家族の人生によりそい、ささえる  
ライフエンディングパートナー

- ・鳥取・米子・松江の各エリアで件数が増加（米子エリアでは「ひの(日野町)」及び「皆生」、松江エリアでは「東朝日町」の各ホールにおける新店効果あり）
- ・新型コロナウイルス感染拡大(第7波)の影響を受けながらも単価も伸ばした。
- ・前年同期比約1割の増収により、人件費、統制可能費の増加を吸収し増益。営業利益率も大幅に改善した。

	FY2021 2Q累計	FY2022 2Q累計	増減額	増減率
葬儀件数(件)	651	721	70	10.8%
葬儀単価(千円)	814	829	15	1.9%
営業収益(百万円)	627	689	62	9.9%
営業利益(百万円)	33	73	40	120.5%

(注1) 営業収益および営業利益はセグメント情報に基づく。

(注2) 営業利益は親会社の費用配賦前の金額を示す。

- ・半数以上の会館で件数が増加し、単価も小規模・簡素な低価格帯葬儀の割合が低下したことにより上昇。1Qの減収から増収に転じた。
- ・前年同期比9.5%の増収により、人件費、統制可能費の増加を吸収。加えて固定費削減効果もあり大幅増益。営業利益率をさらに改善した。

	FY2021 2Q累計	FY2022 2Q累計	増減額	増減率
葬儀件数(件)	671	725	54	8.0%
葬儀単価(千円)	1,091	1,110	18	1.7%
営業収益(百万円)	794	869	75	9.5%
営業利益(百万円)	144	203	58	40.1%

(注1) 営業収益および営業利益はセグメント情報に基づく。

(注2) 営業利益は親会社の費用配賦前の金額を示す。

# 2023年3月期（2022年度）の予想 （業績・配当）

---

シニア世代とご家族の人生によりそい、ささえる  
ライフエンディングパートナー

# 業績予想について

## (2023年3月期)

- ・ 上期実績は予想値を上回ったが、通期予想は据置きとする。

## (理由)

- ・ 新型コロナウイルス感染症の業績への影響が引き続き懸念されること
- ・ 当初織り込んでいなかった、資源・エネルギー価格の高騰による光熱費、ガソリン代等の増加が下期さらに予想されること

(単位：百万円)

	①通期予想	前期比		②2Q累計 (上期)実績	①-②	前年下期比	
		増減率	増減額			増減率	増減額
営業収益	20,800	4.0%	798	10,083	10,716	2.2%	228
営業利益	3,400	0.7%	23	1,782	1,617	-8.7%	▲ 154
営業利益率	16.3%	-0.6% pt		17.7%	15.1%	-1.8% pt	
経常利益	3,390	0.1%	3	1,763	1,626	-8.7%	▲ 155
当期(四半期)純利益	2,130	4.4%	89	1,218	911	-9.1%	▲ 91

# 配当予想について

## (2023年3月期)

- ・ 中間配当は21円で決定。期末配当も21円を予定  
⇒ 年間で4円増配の42円（当初予想を据置き）・・・7期連続増配
- ・ 予想配当性向は21.3%

(単位:円)

FY 決算期	2017 2018/3	2018 2019/3	2019 2020/3	2020 2021/3	2021 2022/3	2022 2023/3	
年間配当金	50.00	57.00	—	33.00	38.00	42.00	(予想)
中間	24.00	27.00	30.00	16.00	17.00	21.00	
期末	26.00	30.00	16.00	17.00	21.00	21.00	(予想)
配当性向(連結)	17.9%	15.2%	18.8%	23.7%	20.3%	21.3%	(予想)

(注1) 2019年10月1日を効力発生日とする1:2の株式分割を実施

(注2) 2023年3月期の予想配当性向は、2022年3月31日現在の自己株式数に基づいて計算

# 新10年ビジョン 中長期目標達成のための2つの挑戦

---

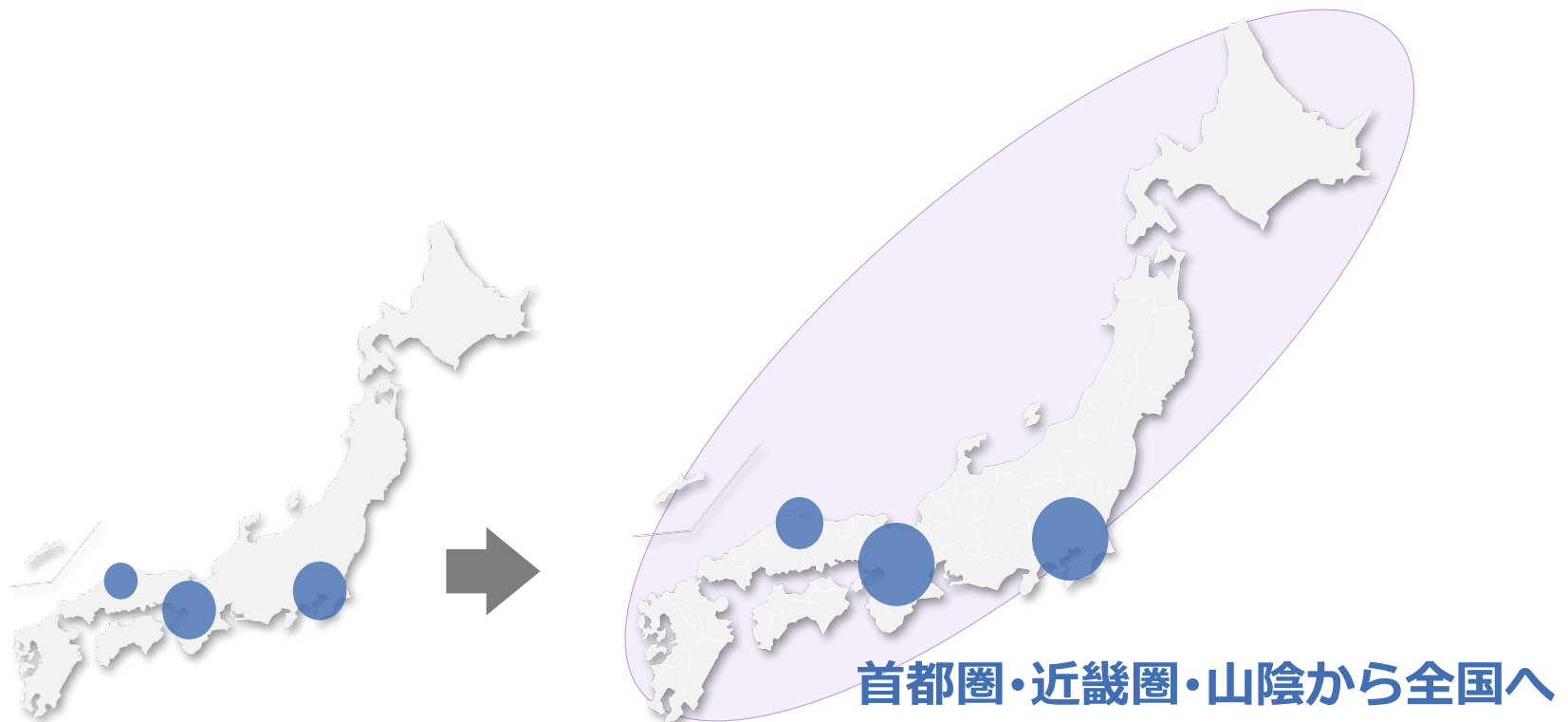
シニア世代とそのご家族の人生によりそい、ささえる  
ライフエンディングパートナー

 SAN HOLDINGS

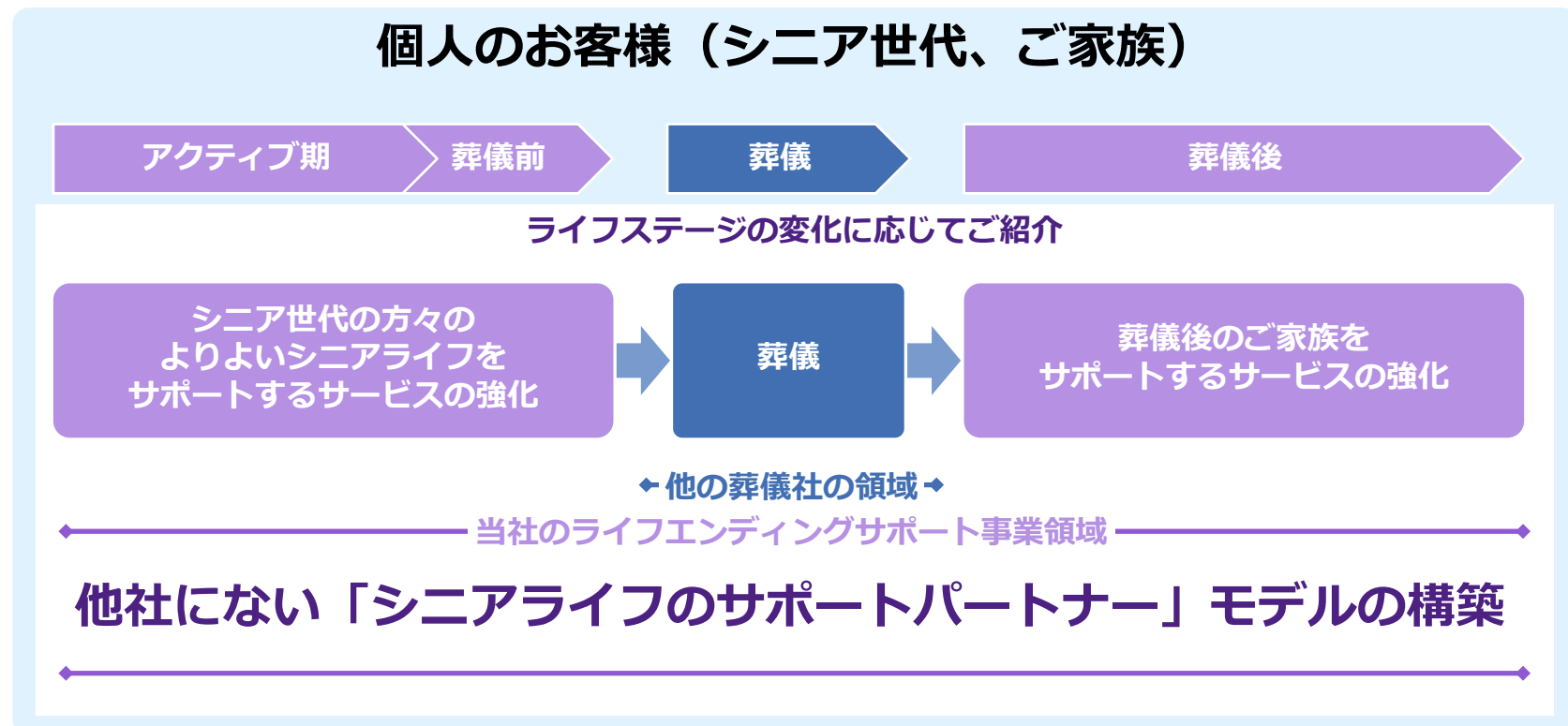


## 2つの挑戦：葬儀会館の全国展開

1. 幅広い層のお客様にご満足いただけるサービスを提供するために、これまでの葬祭サービスの展開エリア（首都圏／近畿圏／山陰）に限ることなく、**全国にサービスを展開します**

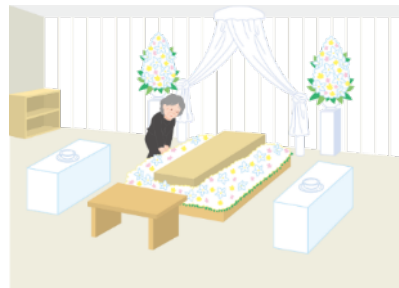


2. **ライフエンディングサポート事業をさらに拡大**させ、  
ライフエンディング・ステージを通じて、さらに様々な  
価値を提供すべく、新規事業／サービスの創出を推進し  
**お客様のクオリティ・オブ・ライフ向上に貢献します**



# ライフエンディングサポート事業とは

ライフエンディング・ステージにおいて必要とされる日常生活や、人生の終末期の準備のサポート等、安心して心豊かな老後の時間を過ごすために必要とされるサービスや商品を提供することで社会に貢献する事業



家事代行

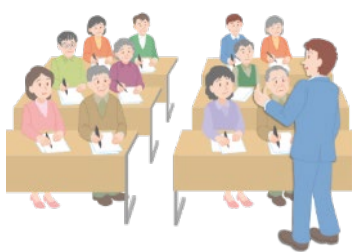


ご葬儀の前

ご葬儀

ご葬儀の後

葬祭セミナー



エンディングノート



散骨



お墓



個人のお客様（シニア世代、ご家族）

アクティブ期

葬儀前

葬儀

葬儀後



ライフフォワード

シニア世代に向けた終活サービスのポータルサイトを通じた商品・サービスの提供



公益社



葬仙

株式会社 タルイ

タルイ

葬儀前後のサポートサービス



エクセル・サポート・サービス

- ・リハビリ特化型  
デイサービス施設の運営
- ・高齢者施設での食事提供

現在はグループ会社5社のそれぞれの事業においてシニア世代のアクティブ期から葬儀後まで必要とされるサービスを提供しています

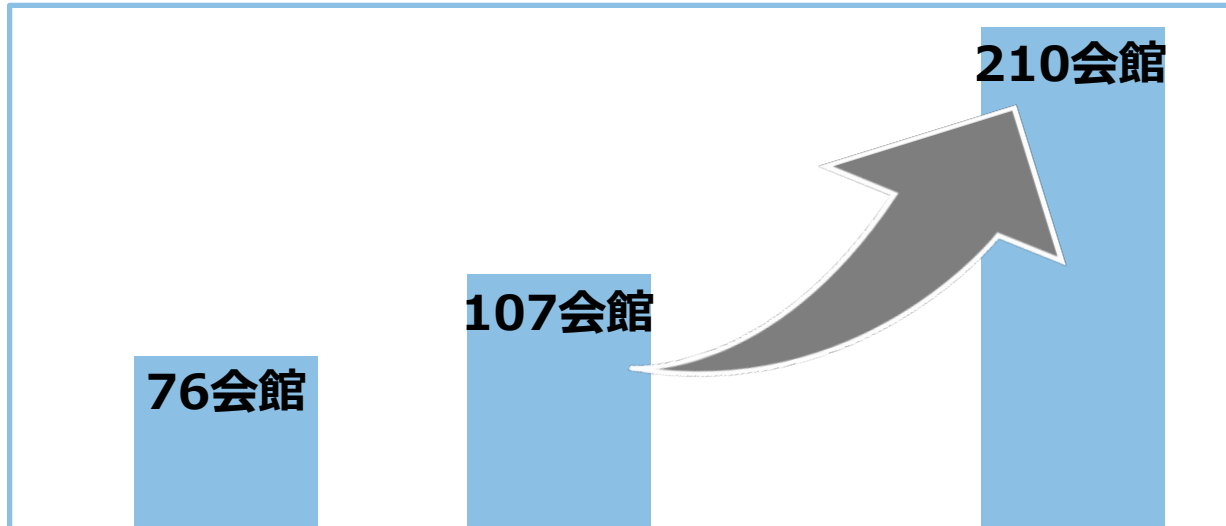


今後は、事業領域の拡大・深化、お客様とご家族との長期にわたる関係の構築により、この事業を拡大してまいります

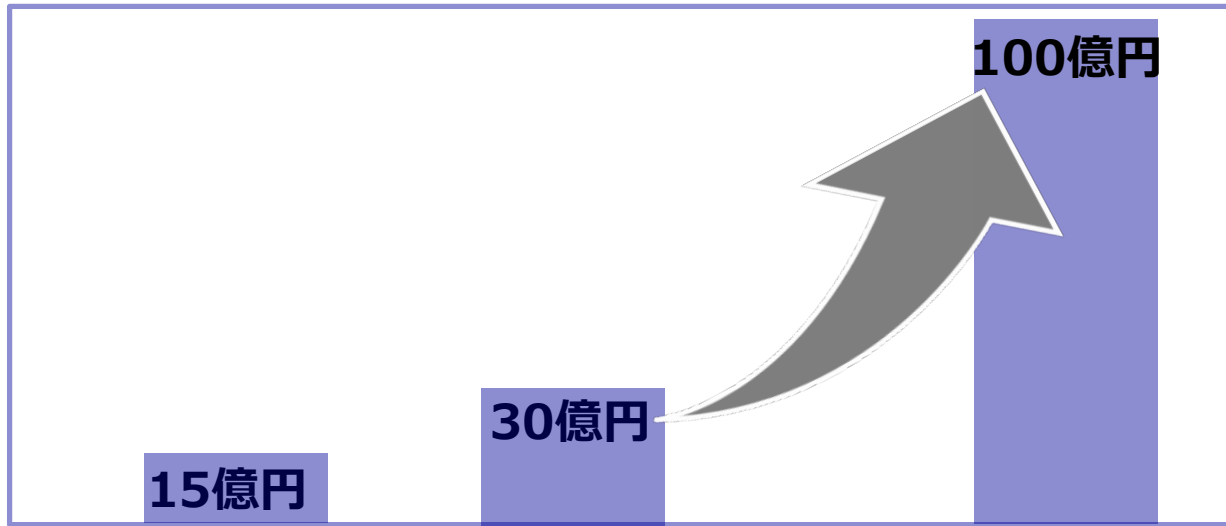
# 燦ホールディングスグループの中長期数値目標

実績 (2022年3月期)	3年後 (2025年3月期)	10年後 (2032年3月期)
------------------	-------------------	--------------------

葬儀事業  
会館数



ライフエンディング  
サポート事業  
売上高



# 中期経営計画 2022-2024

～100周年へ！スピード&チャレンジ～ 1st Stage  
の進捗

---

シニア世代とそのご家族の人生によりそい、ささえる  
ライフエンディングパートナー

 SAN HOLDINGS

家族葬に特化した価格・会館で高品質のサービスを提供する「新葬儀ブランド」で全国の主要都市に新規出店

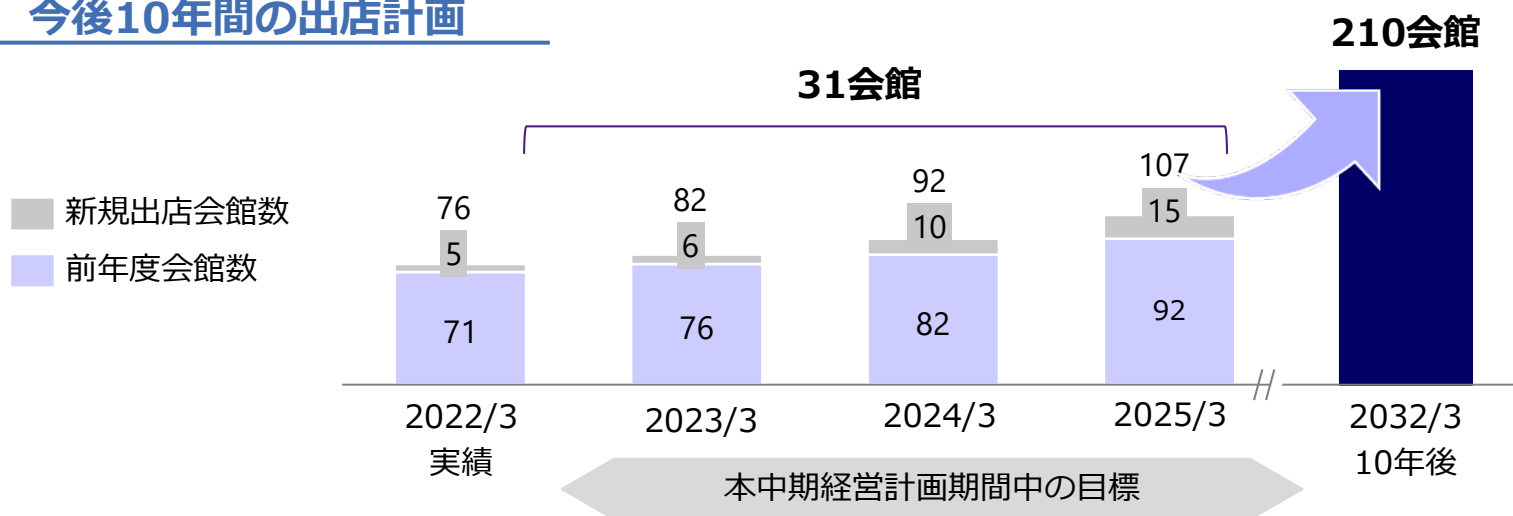
### 新葬儀ブランドとは

- ・ 価格を抑えながらも高品質のサービスを提供するブランド
- ・ 幅広い層のお客様にご満足いただける
- ・ 会館は従来より小さく家族葬に特化  
(低投資低コストオペレーション)

3カ年で  
31会館出店  
(既存ブランド含む)

既存エリア（首都圏・近畿圏・山陰）における既存ブランドの出店も継続

## 今後10年間の出店計画



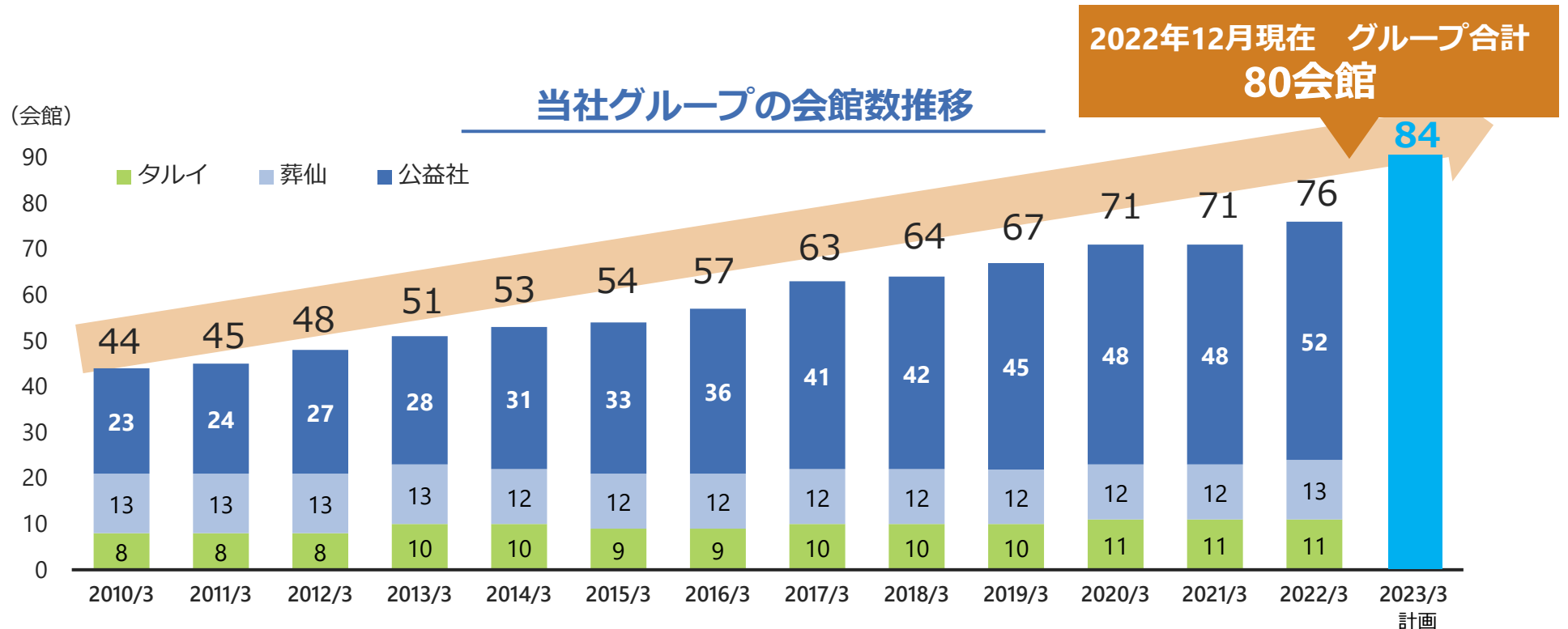
## 葬儀事業の拡大 出店状況

- 「公益社 平野会館」 (大阪市平野区) は2022年9月25日オープン
- 「葬仙 米原ホール」 (鳥取県米子市) は2022年12月オープン予定
- 「タリイ会館 塩屋」 (神戸市垂水区) は2022年12月オープン予定

⇒2022年12月現在：80会館

(公益社：首都圏15・関西圏38／タリイ12／葬仙15)

- 2023年3月期の出店数は8会館の予定 (新葬儀ブランドを含む)  
当初計画の出店数6会館を上回る ⇒2023年3月の会館数は84会館





- (株)広済堂ホールディングスと業務提携契約を締結  
2022年4月1日に合併会社 (株)グランセレモ東京を設立  
資本金：1億円 / 出資比率：広済堂ホールディングス 51%, 燦ホールディングス 49%
- ・ 2022年7月5日に事業を開始（葬儀サービスの提供を開始）

(株)広済堂ホールディングスのグループ会社 東京博善(株)にて運営する  
都内6カ所の総合斎場の知名度・施設の強み



広済堂ホールディングス



燦ホールディングス

燦ホールディングスグループの葬儀運営ノウハウおよびサービス品質

- ・ ホームページを開設（営業拡大・認知度向上）



# ライフエンディングサポート事業の拡大 お客様との長期間のサポートを実現／将来の柱となる事業に育成

33

## ■ ライフフォワードの事業を拡充

- シニア世代に向けた終活サービスのポータルサイト「みんなが選んだ終活」のサービスを拡充し、展開エリアを拡大

首都圏・近畿圏・中部地方 ⇒全国展開予定（2023年3月期中）



⇒パートナー企業様との提携が順調に進んでいる

## ■ 葬儀事業3社（公益社、タルイ、葬仙）にて葬儀前後のサービスを強化

- 商品・サービスのラインナップを拡充
- 多くのお客様との関係を構築
- お客様との長期間のサポートを実現

⇒四十九日後のサポート体制を強化（2022年7月）

# ライフエンディングサポート事業の拡大 終活の浸透を目的とした取組み事例

## ■ ライフフォワードと燦HDによる終活の浸透のための取組み

2022年8月3日にメディア向け説明会を開催（東京ステーションホテルにて）

来場者 10名、オンライン参加 19名 計 29名



### 当日のプログラム

「ライフエンディングトータルサポート  
企業が考える これからの終活」

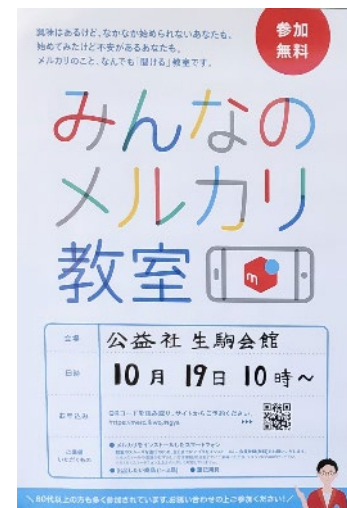
「未来を豊かにする終活とは」

「葬儀会社が提供する終活サービス」

「親の終活を子どもがリードすることの  
大切さ」

## ■ 公益社の会館にて「メルカリ教室」を実施

終活の一つである もの整理 をテーマとしたイベント



### ■部門統合や体制変更による生産性向上 概ね計画通り実施

大阪本社・・・**コンタクトセンターや葬儀関連業務**（お葬式に必要な物の手配、  
寝台霊柩乗務、事務等）の機能、それらの業務のコントロール  
機能を集約

東京本社・・・**事務業務を改善**

⇒**効率的・高品質な業務を提供する体制を実現**

→この効果測定をしながら改善を継続

- コンタクトセンターとは 電話以外にもメールやWEB, チャットなど幅広いツールを使用して顧客とのコミュニケーションを行う部門

### ■燦ホールディングスのシェアードサービス部門における生産性向上 取組み継続

## ■ 動画配信およびタウンミーティング実施による一体感の醸成・士気高揚

2022年6～8月実施

タウンミーティングは各事業会社にて実施

⇒ 中期計画達成に向けて、当グループの進む方向性の理解と、  
経営理念＋パーパスの浸透を促進



当社グループは1932年の創業以来、90年にわたり葬儀事業において、より良いお別れの場の提供に努めてまいりました。

またご遺族のグリーフケアの一助となるべく、遺族サポート「ひだまりの会」の活動やエンバーミングの施行をおこなっております。これらは故人様とご遺族に寄り添うことであり、当社の事業において社会貢献となるものが多くあります。

グリーフケアの充実	• <b>ご遺族をサポートする分かち合いの場</b> 、「ひだまりの会」開催によるグリーフケア活動（2003年から実施、会員数1千名超）
エンバーミング施行	• 故人を生前の元気だった頃のお姿に近づけ、衛生的に保全する科学的な処置（ <b>エンバーミング</b> ）を <b>施行</b> することにより、 <b>より良いお別れの実現</b>
災害派遣	• <b>災害の際、予備自衛官（※）を含めた社員</b> が、亡くなられた方の移送対応など、その他 <b>被災地支援活動</b> を担う  （※）自衛隊が予備要員として任用している非常勤の自衛官。当社エンバーマー（遺体衛生保全士）も予備自衛官として訓練を実施
海外搬送	• 複雑な手続きを要する以下の故人様に対して <b>海外連携の上対応</b> ①海外でお亡くなりになった方の日本への移送 ②国内でお亡くなりになった方の海外への移送

- **ホームページの充実** サステナビリティのページ設置 2022年8月実施
- **TCFD対応** 賛同手続き 2022年10月提出
- **環境配慮型商品の採用** エコ棺の新商品を2022年11月に販売開始  
商品ラインナップの充実
  - エコ棺とは 強化段ボールを用いて木材の使用料を抑え、桐や合板の棺に比べて燃焼時に使用するエネルギーを低減、金具を使わないことから有害ガスの排出も低減できる棺。
- **リサイクル可能な資材・包装材の採用** 紙袋や封筒などに採用  
2022年8月使用開始
- **温室効果ガスの排出抑制** ハイブリッド車両の増車  
寝台車及び霊柩車 2024年に約8割に (←2021年：3割)
- **省エネルギー推進** 自社会館に太陽光パネルを設置 2022年11月導入

## その他トピックス 新型コロナウイルス感染症関係

当社グループの中核である公益社では、より良いお別れの実現のため、専門家と連携し、安全性を確保したうえで、新型コロナウイルス感染症で亡くなられた方へのエンバーミング施行を開始

● 開始日および対応エリア：2022年11月10日より 大阪市内にて ※順次エリアの拡大を予定

● エンバーミングによって、故人と対面して葬儀が可能

具体的には以下のことが可能 ※実施を進めていくに応じて変更の可能性あり

- ・ 通常の葬儀（通夜、告別式を含む）の開催
- ・ 棺の小窓を開けて故人の顔を見ること
- ・ 故人の好きな洋服などを着せてあげること

### 参考情報：

- ・ IFSA（一般社団法人 日本遺体衛生保全協会）に関わる感染症の専門医・専門家が、新型コロナウイルスに、エンバーミング薬液の成分（ホルムアルデヒド・アルコール）が有効との見解を発表
- ・ エンバーミング後に新型コロナウイルスの検査を実施し陰性を確認する。大阪大学大学院医学系研究科 感染制御学講座が検査を担当
- ・ 杏林大学医学部 佐藤 喜宣 名誉教授をはじめエンバーミングの専門家からアドバイスを受けている



### ■ 自己株式の取得

2022年5月13日から10月18日の期間に

3億49百万円（19.35万株）を取得完了（2022年10月19日公表済）

今後も、資金余力及び株価水準等を見たうえで、機動的に実施を検討してまいります。

### ■ プライム上場維持基準 1日平均売買代金0.2億円以上達成

2023年3月末時点基準（算定期間：2022年1月～12月）の1日平均売買代金については、すでに適合が確定しており、2022年11月11日に「上場維持基準の適合に向けた計画に基づく進捗状況について」を公表いたしました。

- プライム上場企業として  
コーポレートガバナンスの強化・充実に努めてまいります
- 新葬儀ブランドについては詳細決定し今期中に公表いたします
- 中期経営計画1年目の施策を推進し通期の計画達成を目指します

# ご参考資料

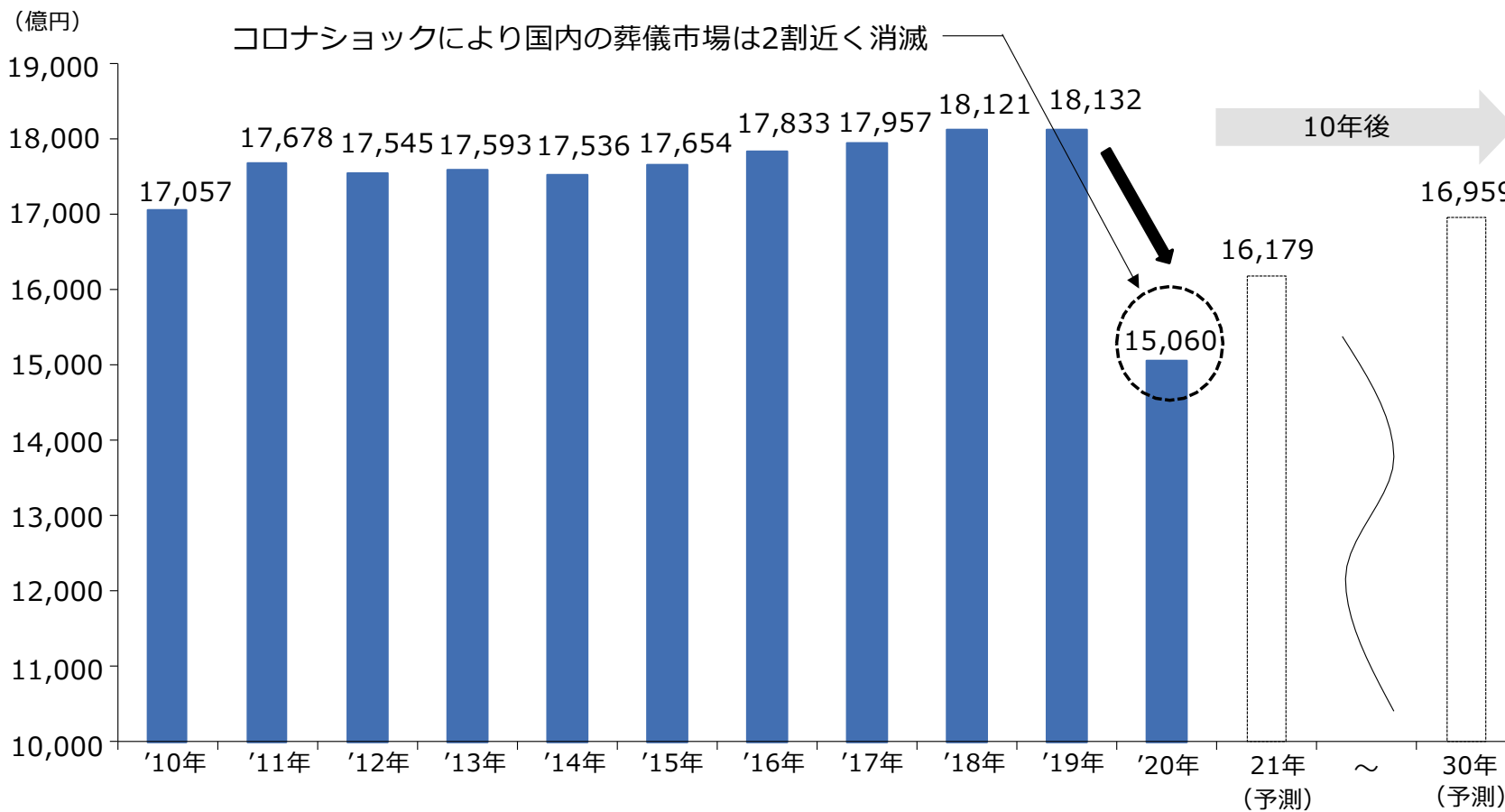
---

シニア世代とそのご家族の人生によりそい、ささえる  
ライフエンディングパートナー



# 葬儀ビジネスの市場規模

- 大幅な成長は難しいまでも、一定の市場規模の維持は可能
  - ・ 葬儀の小規模化とコロナ禍の影響により葬儀単価は下落傾向
  - ・ 一方、死亡数は当面増加傾向



出所：矢野経済研究所「フューネラルビジネスの実態と将来の展望」（2021年版）

※葬儀単価（飲食・返礼品含む）× 葬儀件数（死亡者数の95%）にて算出

※寺院関連・火葬・仏壇・墓地墓石は除く

## ■ 価値観の変化、顧客志向の変化、オンライン化の加速により、市場は質的に大きく変化

### 価値観の変化

社会の変化、価値観の変化により葬儀や供養のスタイルも多様化する傾向にある

#### 新たな葬儀のスタイル

- 世帯構成／親戚関係や宗教儀式への価値観の変化により、葬儀のあり方が多様になっていく
  - 直葬・火葬式
  - 一日葬
  - 無宗教葬、等

#### 新たな供養のスタイル

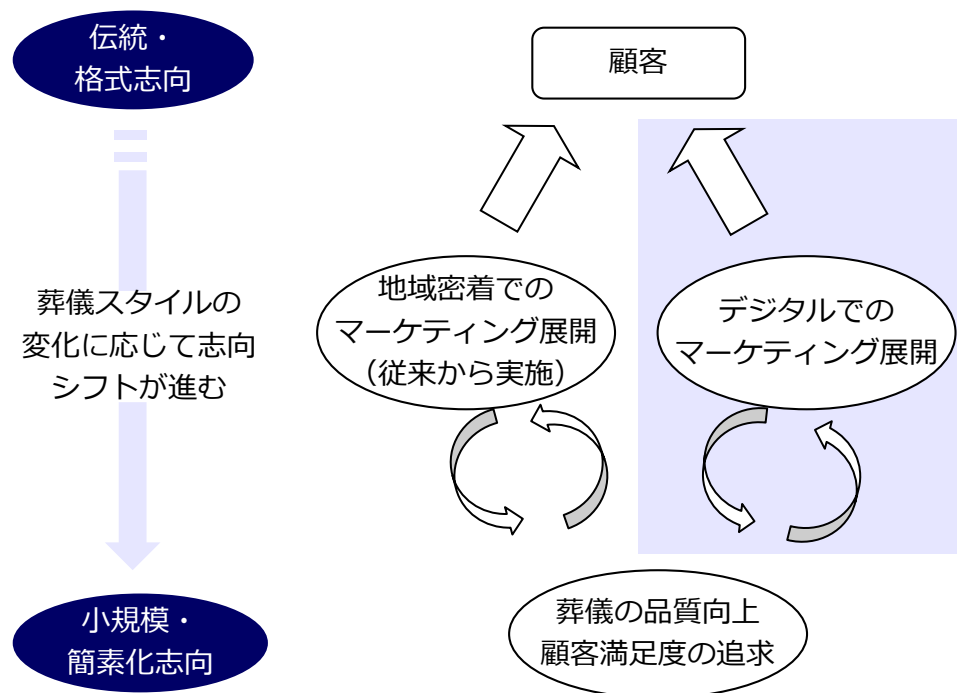
- 高齢化／少子化に伴い墓の維持の難しさや価値観の変化から、新たな供養のあり方が増えていく
  - 永代供養／手元供養／納骨堂
  - 樹木葬／散骨／宇宙葬／バルーン葬、等

### 顧客志向の変化

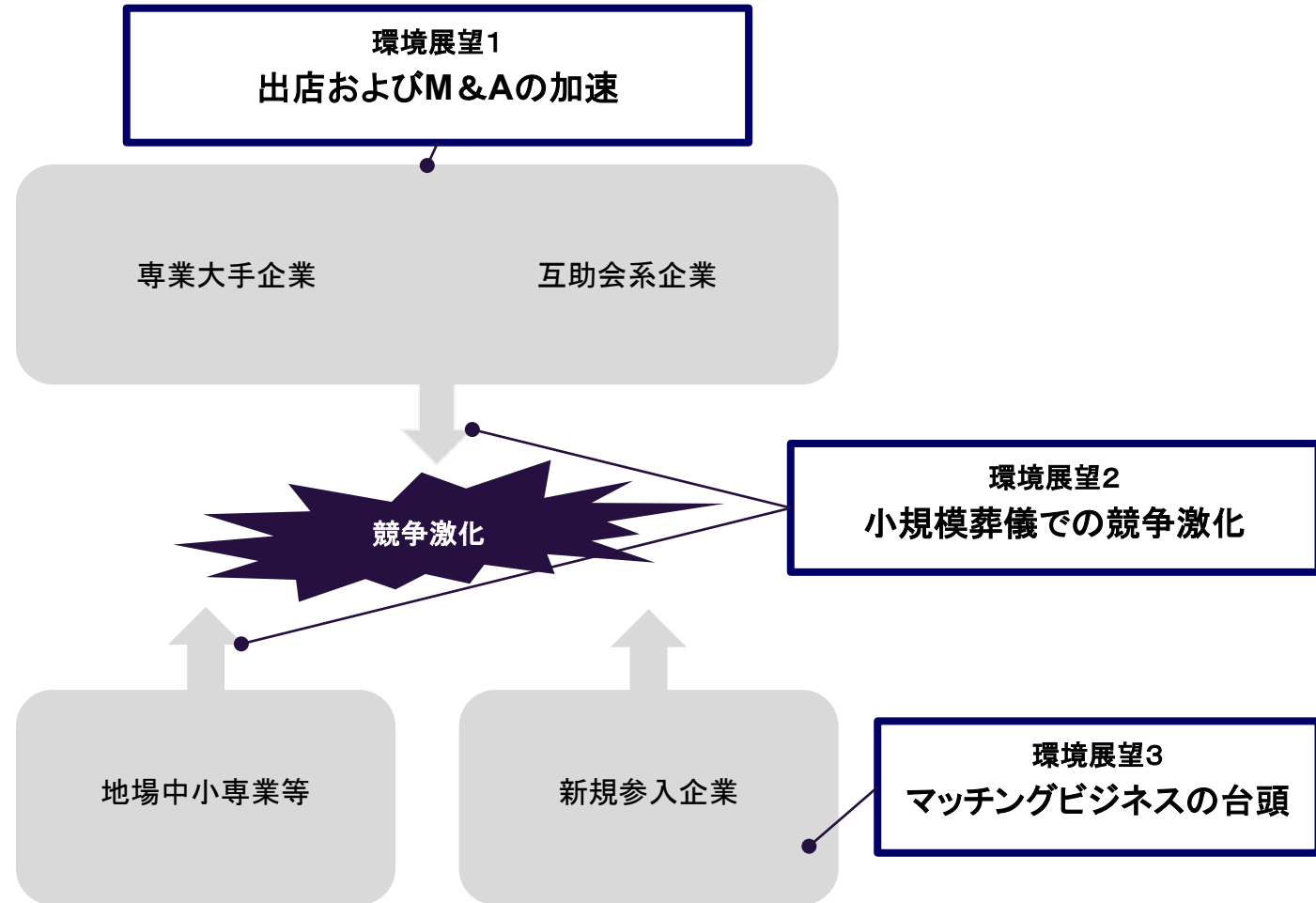
伝統・格式嗜好から、小規模・簡素化嗜好への志向シフトへ

### オンライン化の加速

顧客の情報収集手段がオンライン化し、オンラインでのデジタル営業／マーケティングの必要性の高まり



- 市場の変化に伴って、競争環境も大きく変質しつつある



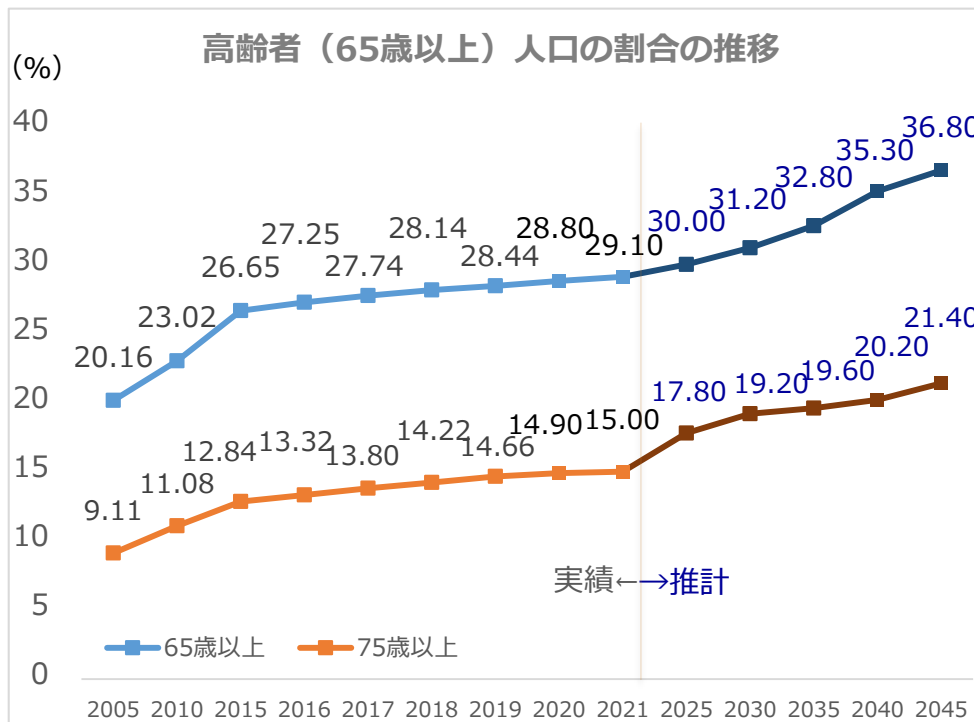
# シニアマーケットの成長

## ■ 高齢者人口は増加傾向

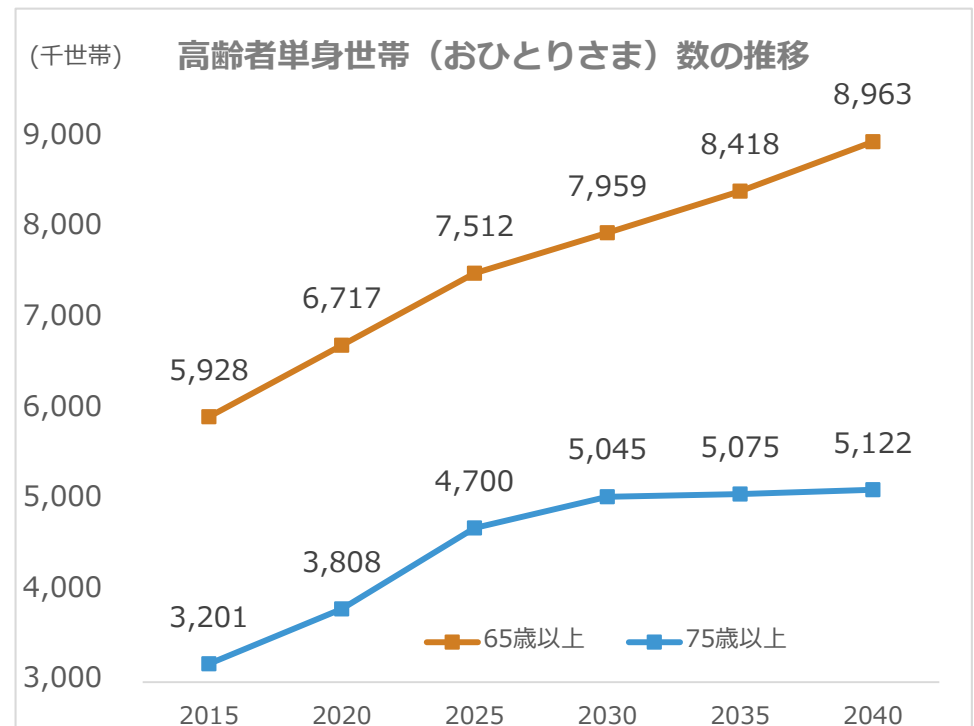
- ・ シニアマーケットは、高齢化の進展／高齢者の生活変化（多様化）によって成長が見込まれる

## ■ 核家族化が進み、世帯人員数は減少の一途となり、高齢者の単身（おひとりさま）世帯数も増加傾向

- ・ シニア世代向けのサポートのニーズが拡大することが見込まれる



出典：総務省統計局「国勢調査(2021年9月15日現在)」  
 国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(2017年推計)」



出典：総務省統計局「国勢調査(2021年9月15日現在)」  
 国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(2017年推計)」

## 当社の強みを活かした事業展開

当社は創業90年を経て培ってきた強みやノウハウを活かして、葬儀事業にとどまらず、ライフエンディングサポート事業の拡大を目指します。

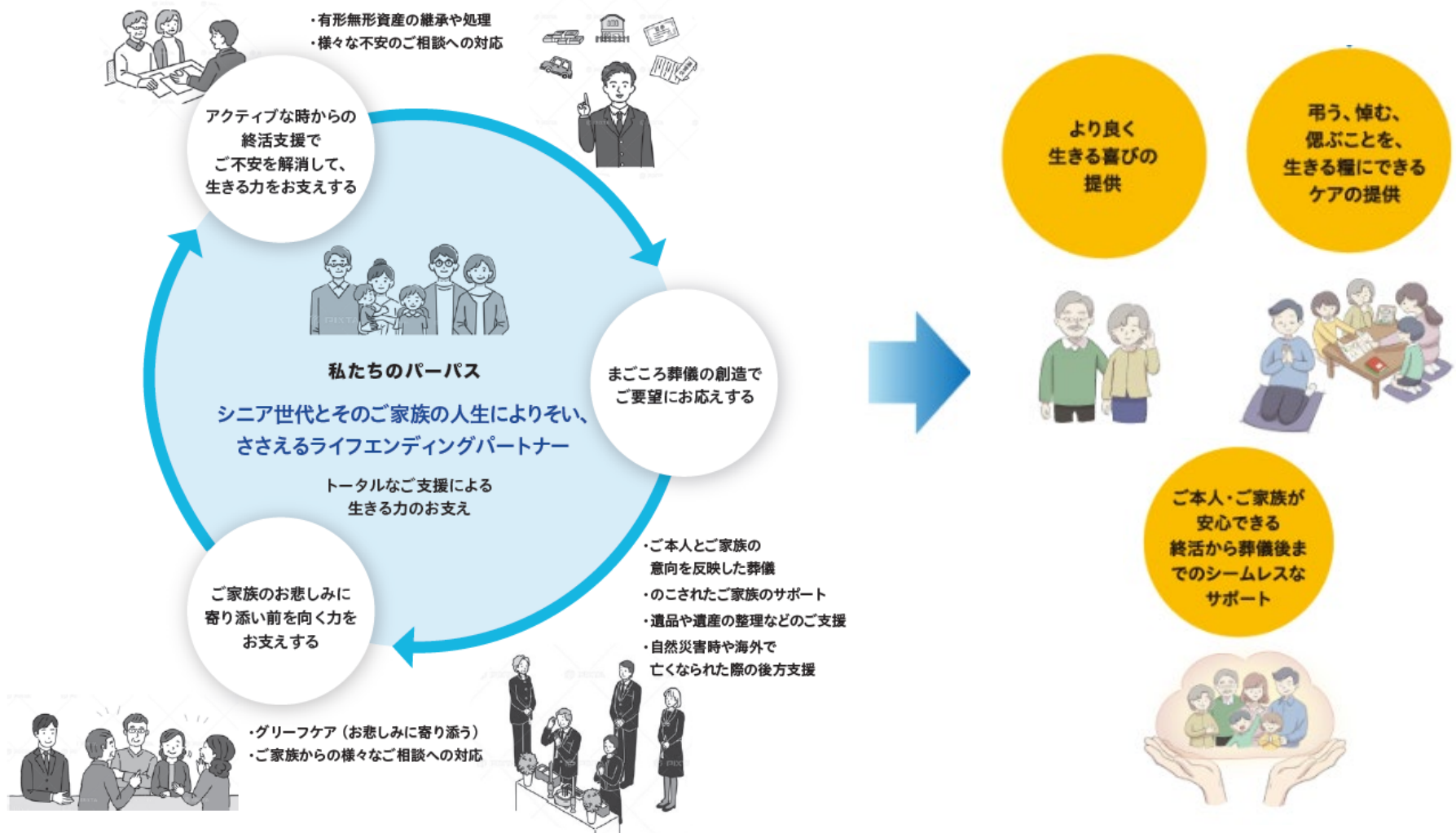
シニア層の方々が安心して心豊かな老後の時間を過ごすために必要となる終活や日常生活に関する課題解決のサポートを行っております。

燦ホールディングスグループの強み

- ①**葬儀件数は年間15,000件以上、葬儀会館を80会館展開**（2022年12月時点）
- ②**経験豊富な葬祭ディレクターが多数在籍**〔葬祭ディレクター：306名〕（2022年6月時点）
- ③**「エンバーミング」の専門スタッフが在籍**〔エンバーマー：24名〕（2022年6月時点）
- ④**葬儀前から、そして葬儀後も安心のトータルサポート**
- ⑤**これまで培ってきたノウハウや知見を活かしたライフエンディングサポート事業**
- ⑥**社葬・お別れの会の施行**においても業界トップクラスの実績
- ⑦**葬儀後も精神面でも遺族によりそう、ひだまりの会**

# 燦ホールディングスグループのパーパス

私たちのパーパスは  
「シニア世代とそこのご家族の人生によりそい、ささえる  
ライフエンディングパートナー」です





私たちは

「シニア世代とそのご家族の人生によりそい、ささえるライフエンディングパートナー」として、事業を通じて社会に貢献するとともに企業価値向上を実現します

<b>成長</b>	<b>事業の拡大を通じた企業価値向上</b>	<b>CS</b>	<b>高付加価値・高品質のサービス提供による社会貢献</b>
-----------	------------------------	-----------	--------------------------------

<b>葬儀事業の拡大</b>	<b>ライフエンディングサポート事業の拡大</b>	<b>葬儀事業の競争力強化</b>	<b>日本一満足・感動いただけるサービスを目指した仕組み強化</b>
新葬儀ブランドを中心とした出店加速により葬儀事業のエリアと顧客ターゲットを広げる	アクティブ期から葬儀後までのライフエンディングサポート事業分野を拡大し、お客様とご家族の長期間のサポートを実現させるとともに将来の柱となる事業に育成する	高品質なサービスをグループで効率的に提供する体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 企業価値の源泉であるサービスのクオリティマネジメント強化</li> <li>■ 葬儀サービスを行う人材の早期育成と品質確保</li> <li>■ 顧客満足度向上</li> </ul>

## 経営基盤の強化

- 人材採用と育成によるグループ総合力強化
- 多様・高度な人材が活躍し変革していく制度設計と教育体制の構築
- ホールディングス全体での経営効率化の推進
- ESG経営の推進

# 中期経営計画（2022～2024年度）における数値目標

- 増収増益により、2024年度に**営業収益230億円**、**営業利益36億30百万円**を目指す。
- 戦略的コスト（人財強化による人件費・採用費、出店費用）が**先行するものの**、**営業利益率 15.5%以上**、**ROIC 7.0%以上**を目指す。

（単位：百万円）

	実績 2022年3月期	中計1年目 2023年3月期	中計2年目 2024年3月期	中計3年目 2025年3月期
営業収益	20,001	20,800	21,800	<b>23,000</b>
営業利益	3,376	3,400	3,450	<b>3,630</b>
営業利益率	16.9%	16.3%	15.8%	<b>15.8%</b>
ROIC	7.3%	7.0%	7.0%	<b>7.0%</b>

※ROIC = 税引後営業利益 / 投下資本

（投下資本 = 有利子負債 + 純資産、税引後営業利益 = 営業利益 × (1 - 法定実効税率)）

- 中期経営計画において成長のための積極的な投資を行う。中計3カ年で**88億円以上の営業キャッシュ・フローを創出する見込み**で、うち**10～15億円を既存設備投資へ45億円以上を成長投資に充当**する。

中計期間の  
営業CF  
約88億円

(参考)  
うち減価償却費の  
累計  
約30億円

既存設備への投資  
約10～15億円

既存設備のリニューアル、改修は、減価償却費の範囲を基本とする

成長投資  
45億円以上

【オーガニックな成長】  
葬儀会館の積極的な新規出店、  
ライフエンディング事業の強化  
【インオーガニックな成長】  
M&A、アライアンス

株主還元

【配当】  
安定配当を基軸としつつ増配に努める  
【自社株式取得】  
キャッシュフローの状況、株価の動向など  
勘案して機動的に実施

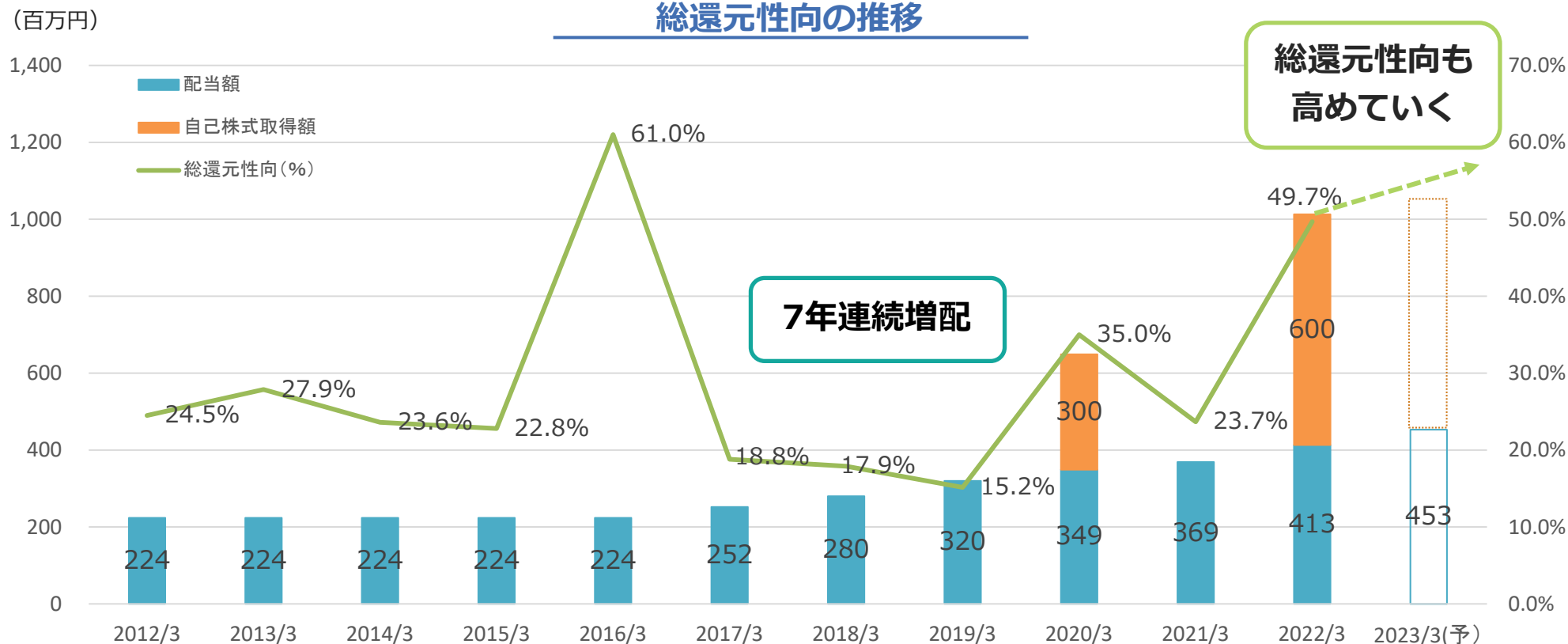
## 安定配当を基軸とした株主還元の向上

株主様への還元を中長期的に充実させてまいります。

剰余金の配当につきましては、連結業績および資金の状況、中長期的な成長投資のための内部留保の確保、ならびに財務の健全性等を総合的に勘案しながら、厳しい環境下においても安定配当を基軸としつつ増配に努めます。

また、自己株式の取得につきましては、資金余力及び株価水準等を見たうえ総合的に考慮のうえ実施してまいります。

### 総還元性向の推移



DPS	20.0円	20.0円	20.0円	20.0円	20.0円	22.5円	25.0円	28.5円	31.0円	33.0円	38.0円	42.0円
-----	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

配当性向	24.5%	27.9%	23.6%	22.8%	61.0%	18.8%	17.9%	15.2%	18.8%	23.7%	20.3%	21.3%
------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

# 「参考情報」サステナビリティのページ設置のお知らせ

燦ホールディングスのホームページ  
サステナビリティページの内容は  
以下のとおり

- ・ トップメッセージ
- ・ 方針・体制
- ・ コーポレート・ガバナンス
- ・ コンプライアンス
- ・ リスクマネジメント
- ・ 環境
- ・ 社会貢献
- ・ 人的資本経営・働き方・DEI

DEIとは、Diversity（多様性）、Equity（公平性）、  
Inclusion（包括性）の略

燦ホールディングス株式会社 | 英語 | お問い合わせ | サイトマップ | 検索 | 印刷 | 印刷

グループについて | 株主・投資家情報 | ニュース | サステナビリティ | 業務提携 | 採用情報

サステナビリティ

HOME > サステナビリティ

トップメッセージ

方針・体制

コーポレート・ガバナンス

コンプライアンス

リスクマネジメント

環境

社会貢献

人的資本経営・働き方・DEI

# 「参考データ」 会社概要・業界特性

## 会社概要

社名	燦ホールディングス株式会社
設立	1944年（昭和19年）10月2日 （創業1932年8月）
資本金	25億6,815万円
上場市場	東証プライム／証券コード 9628
営業収益	200億01百万円（2022年3月期）

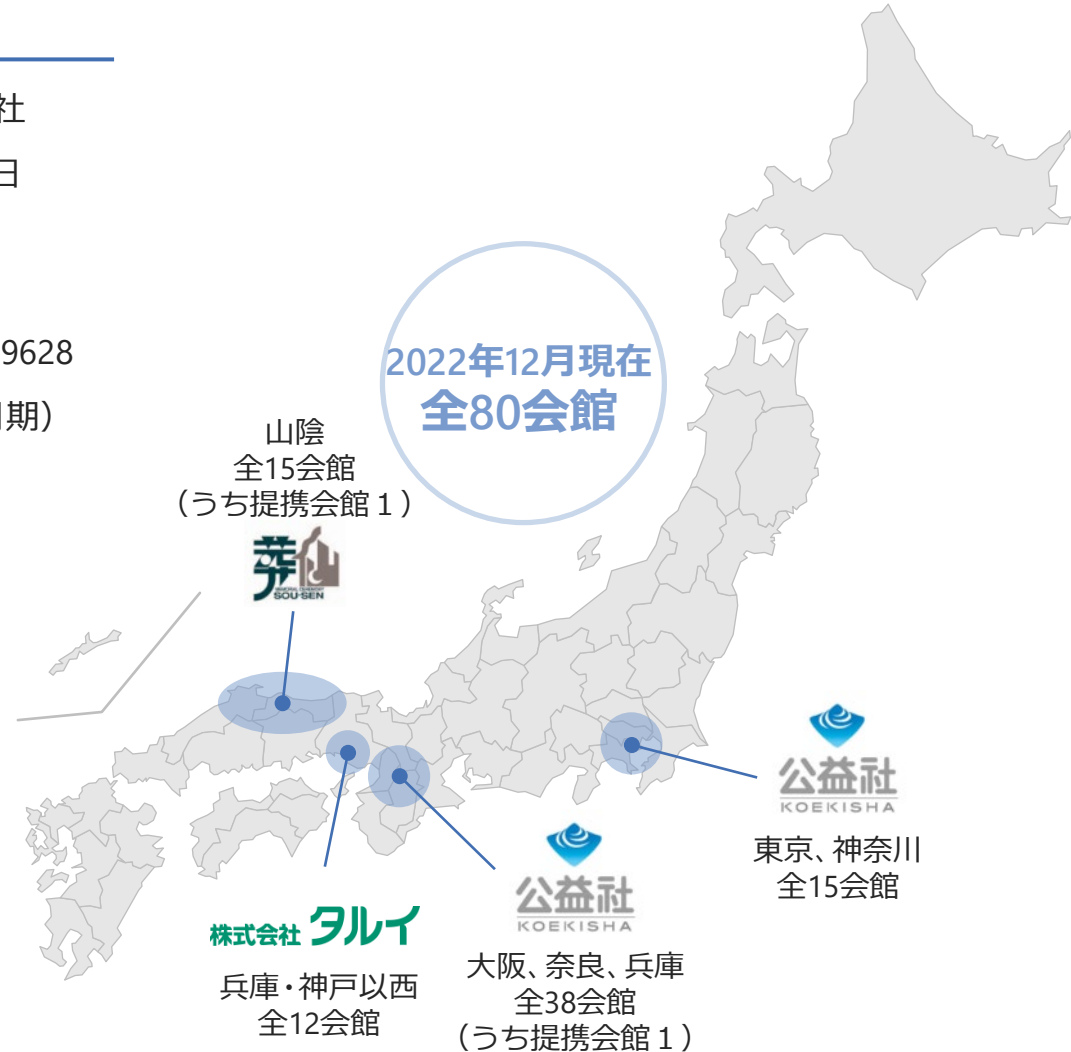
## 現時点での葬儀事業の展開エリア

首都圏（東京、神奈川）  
 関西圏（大阪、兵庫、奈良）  
 山陰地方（鳥取、島根）

## 業界特性

監督官庁がなく、規制がない業界

参考）業界規模…年間死者数約137万人（2020年）  
 2040年まで約170万人の死者数が予想される。  
 年間約1兆6,070億円（137万人×117.3万円）



シニア世代とそのご家族の人生によりそい、ささえる

ライフエンディングパートナー

 SAN HOLDINGS

## 経営理念

### 人生に潤いと豊かさを。よりよく生きる喜びを。

#### 葬儀事業からライフエンディングのトータルサポート企業へ

新しい価値、高い付加価値を提供することにより、  
商品やサービスを通じてお客様と地域の人々の人生に潤いと豊かさを感じてもらうこと、  
よりよく生きる喜びを感じてもらうことが社会に果たすべき使命であることを意味しています。

#### わたしたちの使命 MISSION

人生に潤いと豊かさを。  
よりよく生きる喜びを。

#### わたしたちの未来・目指す姿 VISION

わたしたちは、  
人の心に寄り添い、人生の喜びと幸せを創出する企業、  
新しい価値、高い付加価値を創造し、持続的に安定成長していく企業、  
一人ひとりが情熱をもって、主体的に行動し挑戦しつづける企業  
になることを目指します。

#### わたしたちの価値観 VALUE

人生を主体的によりよく生きること、成長していくこと  
変化を恐れず挑戦しつづけること、進化していくこと

シニア世代とそのご家族の人生によりそい、ささえる

ライフエンディングパートナー

## 《注意事項》

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

お問合せ先： 燦ホールディングス株式会社 経営企画部  
TEL 06-6226-0038

2022年11月22日

2023年3月期第2四半期決算説明ライブ配信

Copyright 2022 SAN HOLDINGS, Inc. All Rights Reserved.

シニア世代とそのご家族の人生によりそい、ささえる

ライフエンディングパートナー

 SAN HOLDINGS